

No.340

平成30年7月

二三男くんの
未来日記
品川区

共助による支え合いで住み続けたい品川区を 区民や企業、団体等が協働の精神でまちづくり

現在の大井町駅



東急大井町線大井町駅への坂道は今も
面影が残っている(昭和42年)



23 TOKYO

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

区政会館だより

巻頭特集記事

二三男くんの未来日記



この連載では、70年前からタイムスリップしてきた二三男くんが、23区の「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」等を通じて23区の将来の展望を探ります。

03 第7回〈品川区〉
共助による支え合いで住み続けたい品川区を
区民や企業、団体等が協働の精神でまちづくり

- 特別区長会事務局
- 08 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
東北絆まつり2018盛岡への支援・協力・参加
- 09 特別区副区長会新幹事が就任
平成30年6月区長会の主な案件等
- 10 「特別区長会調査研究機構」を設置
- 特別区議会議長会事務局
- 07 特別区議会議長会会長就任あいさつ
- 09 特別区議会議長会新役員を選任
平成30年6月議長会の主な案件等
- 特別区人事・厚生事務組合
- 10 平成30年第2回
特別区人事・厚生事務組合議会定例会の結果
組合教育委員会委員の就任
- 11 特別区職員採用試験・選考の申込受付を開始しました
- 12 特別区立幼稚園教員採用候補者選考の応募状況
特別区立幼稚園園長・副園長選考受験申込状況
- 14 路上生活者対策事業の紹介（平成29年度実績報告）
- 16 特別区職員研修所からのご案内
9月の研修メニューを紹介します
- 24 法律を忠実に執行していたんじゃダメなんですか？
（訴訟事件事例紹介334）
- 公益財団法人特別区協議会
- 12 平成30年度
公益財団法人特別区協議会評議員選定委員会の結果
- 13 平成30年度
公益財団法人特別区協議会第2回理事会（みなし決議）の結果
平成30年度
公益財団法人特別区協議会定時評議員会の結果
平成30年度
公益財団法人特別区協議会第3回理事会（みなし決議）の結果
- 17 葛飾柴又紹介展示
～懐かしい下町情緒が残る寅さんのふるさと
「私生まれも育ちも葛飾柴又でございます」～を開催
- 18 特別区に関する統計情報のご紹介
- 20 首都大学東京オープンユニバーシティ
飯田橋キャンパスより8月開講講座のご案内です!!
- 公益財団法人東京都区市町村振興協会
- 17 今年のサマージャンボは、賞金が充実し、魅力UP!
7月9日から発売
- 東京二十三区清掃一部事務組合
- 21 平成30年第2回
東京二十三区清掃一部事務組合議会定例会の結果
清掃工場に足を運んでみませんか？
- 特別区競馬組合
- 21 平成30年第2回
特別区競馬組合議会定例会の結果
- 25 今年もTCKはサマーイベント盛りだくさん!
- 26 TCK INFORMATION

8月放送予定表

TOKYO MX1
お江戸に恋して
毎週土曜日 11:00~11:55
週末ハッピーライフ!お江戸に恋して

区長にききたい東京ハッピーライフ	
放送日	ゲスト区長
8月 4日 (土)	豊島区 高野 之夫 区長
8月11日 (土)	世田谷区 保坂 展人 区長
8月18日 (土)	品川区 濱野 健 区長
8月25日 (土)	杉並区 田中 良 区長



TOKYO MX
番組配信サービス
「エムキャスト」
23区広報番組
毎週金曜日配信予定

配信開始日時	配信予定期間	提供	番組名	サブタイトル（または放送内容）
8月 3日	8/3(金)~10/3(水)	北区	住めば、北区東京	夏休みの自由研究大作戦!
		大田区	シティーニュースおた	ブラジルハンドボールチーム国際親善試合
		品川区	いま聞いておきたいあの日の記憶	昭和20年5月24日城南大空襲
8月10日	8/10(金)~10/10(水)	渋谷区	パラ卓球をリアルに観戦してみよう!	オリンピック・パラリンピック競技リアル観戦事業は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、区内実施競技の1つである「パラ卓球」への興味・関心を高め、区民の気運醸成を図る取り組みです。間近で観戦することで、選手の迫力や躍動感を体験できます。
8月17日	8/17(金)~10/17(水)	葛飾区	カツシカデシカ	かつしか観光大使の内山信二さんがまちを歩きながら、葛飾「でしか」出会えない魅力を掘り下げていくまちあるき番組
8月24日	8/24(金)~10/24(水)	中野区	ピックアップなかの	中野歴史探訪「明治150年を迎える中野のまち」
8月31日	8/31(金)~10/31(水)	荒川区	こんにちは荒川区	尾久西小 北海道広尾町ホームステイ体験学習~海が教えてくれたこと~

※本誌発行時点では、新元号が定められていないため、平成31年以降の元号についても「平成」を使用しています。

共助による支え合いで住み続けたい品川区を

区民や企業、団体等が 協働の精神でまちづくり



地域による見守り「003 (ハチサン)運動」発祥の地

朝の爽やかな空気に包まれ、品川区を散歩していた二三男くんは、子どもの見守りで道端に立っている方を見掛けました。

これは、小学校の登下校の時刻である午前8時と午後3時、大人たちがなるべく外の用事を行いながら子どもを見守る「03 (ハチサン)運動」です。この運動は、品川区が発祥で、その後、全国に広がりました。二三男くんは「品川区は、人口減少や少子高齢化の中で、地域の支え合いをどうやって強めているのか調べたい」と思い、品川区役所に向かいました。

若年者の転入

二三男くんは品川区役所の区政資料コーナーで『品川区人口ビジョン』と『品川区総合戦略』を手に取りました。

品川区では、高度経済成長が始まる前後にあたる昭和20年代後半から昭和30年代前半に人口が急増し、1964 (昭和39)年には戦後のピークとなる41万5728人を記録。その後、人口は減少に転じ、1997 (平成9)年には31万5696人まで減少しました。しかし、それ以降は再び増加傾向に転じ、2018 (平成30)年1月には38万7622人まで増えています。

出生数は近年、増加傾向が続いて

います。母親の年齢階級別では、30歳での出産が多く、出生数全体の約4割を占めています。転入は男女ともに20歳代で多く、転入総数のうち69・9%がこれらの年齢層により占められています。

二三男くんは「若い世代がたくさん転入しているのが、品川区の強みだね」と感心しました。

品川区に愛着を持ち、 住み続ける

『人口ビジョン』によると、将来人口推計は、当初は近年の社会移動の傾向を維持し、その後、社会移動は急速に減少する「中位推計」、中位推計よりも社会移動が微減傾向を示す「低位推計」、中位推計ほどに

は社会移動が減少せず、増加基調が当面続く「高位推計」を設定しています。

その結果、品川区の日本人の総人口は当面は増加傾向を維持しますが、高位推計で2033 (平成45)年、中位推計および低位推計で2027 (平成39)年にピークを迎え、以降は減少に転じることが分かりました。また、2060 (平成72)年には高位推計では35万6620人、中位推計では33万2989人、低位推計では32万8131人となっています。そのため、将来展望では、若年者の転入傾向を維持するとともに、これらの世代が品川区で子どもを生み育て、区に定着してもらえるよう定住を促進することや、品川区で生ま



れ育った人、転入してきた人が他の自治体に転出することなく、品川区に愛着をもち、住み続けたいと思える環境を整備することなどをうたっています。

二三男くんは「品川区に転入してくる若い世代が、ずっと品川区に住み続けてくれるような施策が必要なんだな」と思いました。

品川区の4つの基本目標

二三男くんは続けて、『総合戦略』を読みました。

総合戦略では、策定に当たったの基本的な視点として、①子どもを子育てやすく、住み続けたい環境を整備し、安定的な人口構造を確保する、②将来に向けて持続的に発展するため、区民や多様な人びとが活動・交流できる地域社会としての魅力を高める、の2点を示しています。

その上で、四つの基本目標を掲げています。

一つ目は、「安心して子どもを生まれ、楽しく子育てができるまちをつくる」。

子育てへの負担感や不安感、孤立感を軽減し、誰もが安心して子ども



町会・自治会など地域の支え合いが強いのが品川区の良さ



を生み、楽しく子育てができる環境をつくること。また、品川区の特色ある教育活動を受けさせたいと感じられるような、確かな学力と豊かな人間性を育む学校教育の充実を図るとあります。

二つ目は、「地域を支える産業の活力を高め、魅力ある雇用の場を創出する」。

新たなまちづくりと合わせ、地域の活力の維持と雇用創出を図るた

め、区内産業の活性化を支援。また、今後の雇用情勢や景気動向を踏まえつつ、人口構造の変化に対応するため、多様な世代に対する就業支援を行うとあります。

三つ目は、「国際化への対応をさらに進めつつ、多様な地域との交流・連携を推進し、ともに発展する」。

品川区は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ではビーチバレーボールやホッケーの

会場となります。地域の国際化への対応や都市型観光の推進、交流の場にもふさわしいまちづくりなど、都市としての魅力向上を図ることにより、世界に開かれた交流を促進するとあります。

そして最後は、「生涯にわたり住み続けたい安心と活力のあるまちをつくる」。

多様な世代の定住性の向上を図るため、安全で安心して生活ができ、

全国の自治体・団体・企業等をつなぐ 全国シティプロモーションサミットを開催

品川区は2017(平成29)年10月26日・27日の2日間、「全国シティプロモーションサミット2017 in Shinagawa」を開催しました。都内では初の開催で、関連イベントを含めて、全国から約2,500人が来場しました。

全国シティプロモーションサミットは、シティプロモーションに取り組む全国の自治体職員が一堂に会し、まちの特色を活かした創意工夫や経験を共有し、抱えている課題の解決に向けて意見交換を行うものです。

担当者は「都市型観光など都心が抱える課題や取り組みを共有することができた他、品川区の魅力も全国にアピールできました」と話しています。

それぞれの自治体職員が自分の住むまちの魅力をどう打ち出すのか、立場を超えて話し合う機会が持てたことは、貴重な経験になったのではないのでしょうか。



シティプロモーションサミット



誰もがいつまでも元気で、いきいきと暮らせる環境を整備するとともに、区民や様々な団体との協働を推進し、共助による支え合いのしくみを構築するなど、生涯にわたり住み続けたい活力のあるまちをつくらんとあります。

地域の担い手となる町会 ・自治会を支援

二三男くんは、基本目標の最後にある「生涯にわたり住み続けたい安心と活力あるまちをつくる」に注目しました。

ここでは、「区民や様々な団体が主体的に活動できる、活力のあるまちをつくる」としています。地域が抱える様々な課題の解決を図るため、地域コミュニティの重要な担い手である町会・自治会を中心として、企業や大学、NPOなどの自主活動団体との協働を進めるとともに、そのための活動を支援していく考えです。

なかでも二三男くんが興味を持ったのは、重点施策である「町会・自治会の活動支援」です。

品川区には、6月1日現在、約



200の町会・自治会があります。

町会・自治会は、地域住民が生活を営む中で生まれた地域を代表する団体で、地域コミュニティの中心的な役割を担っています。しかし、町会・自治会の法的な位置付けなどは明確ではありませんでした。

そこで、品川区は、町会・自治会の位置付けを明確にし、町会・自治会の活動を後押しするために、23区初となる「品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定。条例では良好な地域コミュニティを維持・形成し、共助の精神に支えられた地域社会の実現を目指し、町会・自治会の位置付けや役割を明らかにするとともに、区が取り組むべき支援、区民・事業者が協力する事柄を定めています。

また、品川区は、町会・自治会への加入促進のため、その役割をパンフレットやホームページなどで広く紹介するとともに、活動の活性化や拠点機能の充実を支援しています。

地域での見守りの対象は、子どもだけではありません。高齢者が安心して生活していくための見守り活動

など、町会・自治会や事業者との連携をさらに深めた地域での見守り体制の仕組みづくりも進めています。

区内全13地域センターに設置されている「支え愛・ほっとステーション」では、社会福祉協議会や民生委員と連携し、独り暮らしの高齢者などに対する身近な場所での相談や日常生活上の困りごとなどにきめ細かに対応しています。

多世代交流施設で子育て応援

品川区が子育て支援の大きな柱としているのが、妊娠・出産から育児まで切れ目のない支援を行う「しながわネウボラネットワーク」です。保健センターには「妊産婦ネウボラ相談員」、児童センターには「子育てネウボラ相談員」が子育ての相談などに応じ、希望者にはサポートプランも作成しています。

また、産後の家事・育児支援のヘルパー等の利用助成や、日帰りの産後ケア事業、区指定医療機関での宿泊型産後ケア事業などのサービスも提供しています。

「ゆうゆうプラザ」では、子育て

応援プログラムも行われています。

具体的には、子育て交流サロンや、ママのリフレッシュタイムなどの取り組みがあります。「ゆうゆうプラザ」は、高齢者だけでなく多くの世代が利用する施設です。とかく孤独になりがちな子育て中の親子と、地域の高齢者が交流できる場合は、地域の支え合いを大切にする品川区ならではの施設です。

地域の支え合いで発展する品川区

品川区は地域の絆が強い街です。町会・自治会を中心に区民や企業様々な団体が協働して、子育て支援や地域の見守りなど、課題解決に積極的に取り組んでいます。

二三男くんは「子育て支援を充実するだけではなくて、町会・自治会など、地域が積極的に活動できるような仕組みや環境をつくっていることが、多くの区民の『住み続けたい』という思いにつながっているのかもしれないね」と考えました。

『総合戦略』を一通り読み終えた二三男くんは、大井町駅まで歩きました。駅前にはやってきた二三男くん

妊産婦ネウボラ相談員が妊娠・出産から育児まで切れ目なく相談に応じている。



は、大井町駅の変貌ぶりに驚きました。

「僕が昔見た大井町駅とは大違いだ。街は発展しても、地域の支え合いは強い。少子高齢化問題も乗り越えてほしいね」

二三男くんは、ワクワクしながら改札口へと向かいました。